

第 114 回 計測技術委員会議事録

日 時 平成 19 年 5 月 18 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00
場 所 電気倶楽部 第 2 会議室
出席者 委員 長 信太 (佐賀大)
委 員 稲垣 (横河電機)、内田 (電通大)、大木 (日電検)、大谷 (アンリツ)
田辺 (電中研)、仲嶋 (三菱電機)
幹 事 作本 (日電検)
幹事補佐 白井 (日電検)

資 料

- 114-1 第 71 回、72 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録
- 114-2 平成 19 年度 計測技術委員会活動計画
- 114-3 平成 19 年度 計測研究会開催予定
- 114-4 平成 18 年度 研究会 (開催数、発表論文数、予約者数)
- 114-5 平成 18 年度 計測委員会活動状況
- 114-6 平成 18 年度 研究会活動補助金 会計報告

議 事

1. 議事録の確認

- ・ p. 1 ↑ 1 「白井幹事補佐」を「白井幹事補佐より」に訂正した後、承認された。

2. 運営委員会報告 (平成 19 年 3 月 2 日および 5 月 11 日開催分)

白井幹事補佐 (信太委員長代理出席) より、資料 114-1 に基づき以下の報告があった。

イ. 調査専門委員会の解散 (9 件) および新設 (6 件) が承認された。

[解散]

- ・ 新しい光源とモデリング・計測調査専門委員会 (光応用・視覚技術委員会)
- ・ 情報通信のための誘電絶縁材料調査専門委員会 (誘電・絶縁材料技術委員会)
- ・ 電力機器絶縁診断の経済性評価調査専門委員会 (誘電・絶縁材料技術委員会)
- ・ ナノ構造制御有機薄膜及び複合膜の機能化とデバイス応用調査専門委員会 (誘電・絶縁材料技術委員会)
- ・ 環境対応材料の電気機器への応用調査専門委員会 (誘電・絶縁材料技術委員会)
- ・ イオンマイグレーションの発生特性と防止方法調査専門委員会 (誘電・絶縁材料技術委員会)
- ・ 真空中における放電制御のための高度計測・シミュレーション技術調査専門委員会 (放電技術委員会)
- ・ 先進超電導線材の製造技術と特性に関する調査専門委員会 (金属・セラミクス技術委員会)
- ・ 高性能永久磁石とその応用調査専門委員会 (マグネティックス技術委員会)

[新設]

- ・ 電磁波・情報セキュリティ技術調査専門委員会 (電磁環境技術委員会)
- ・ 有機誘電体・半導体の界面物理と有機・分子素子機能・デザインに関する調査専門委員会 (誘電・絶縁材料技術委員会)
- ・ 電力設備の絶縁材料から見た劣化診断技術調査専門委員会 (誘電・絶縁材料技術委員会)
- ・ 永久磁石の高性能化と応用調査専門委員会 (マグネティックス技術委員会)

- ・ ナノスケール磁性体の構造・組織制御と機能・応用調査専門委員会
(マグネティックス委員会)
- ・ 繰返しインパルスにおける部分放電計測調査専門委員会
(放電、誘電・絶縁材料技術委員会)

ロ. 平成 18 年度部門大会

- ・ A 部門大会は 382 名の参加者、270 件の論文投稿があり、42 万円の黒字となった。

ハ. 公開シンポジウムについて

- ・ 電気学会が主催する公開シンポジウムは年 2 回開催とすることが承認された。次回は 8 月頃に九州で開催が予定されている。

ニ. A 部門フォーラムについて

- ・ 現在、金属・セラミックス、放電、電磁環境の各技術委員会から開催が検討されている。

3. 平成 19 年度活動計画並びに計測研究会開催予定

作本幹事より資料 114-2 および 114-3 に基づき、平成 19 年度活動計画並びに計測研究会開催予定について説明があった。

- ・ 5 月に予定していた「計測一般」の研究会は 6 月に実施する。したがって、6 月は「計測一般」と「電磁波計測」の 2 件の研究会を開催する。
- ・ 大阪の中央電気倶楽部で開催する「計測一般」の研究会は、7 月 20 日を予定する。また、東京支部連合研究会は 9 月 7 日午後とする。
- ・ 佐賀大学で開催する「計測一般」の研究会は、11 月 8 日、9 日の 2 日間とする。
- ・ 新設の調査専門委員会は 2 件の設置を予定している。電力関連の計測、IT の応用、光関係、ネットワークセンシングなどが考えられる。例えば、自動車に搭載されるセンサなどの調査を行うてはどうか。
- ・ 新設の委員会については、各委員から候補があれば提案してほしい。

4. 平成 18 年度研究会

白井幹事補佐より資料 114-4 に基づき、研究会の開催数、発表論文数、予約者数について報告があった。

- ・ 運営委員会に提出された資料である。計測研究会の実績について説明を求められた。

5. 平成 18 年度活動状況

作本幹事より資料 114-5 に基づき、平成 18 年度活動状況について説明があった。

- ・ 昨年 5 月と今年 1 月に予定していた研究会が開催できなかったため、計 6 回の実施となった。
- ・ 今年度、優秀論文発表賞の割り当てを確保するためには、60 件以上の件数を集める必要があるのではないか。
- ・ 今後、電子情報通信学会との共催も考慮したい。

6. 平成 18 年度研究会活動補助金について

作本幹事より資料 114-6 に基づき、活動補助金の会計報告があった。

- ・ 研究会資料の売上金額の 3 %が活動補助金となる。主な用途は研究会の懇親会補助である。

次回予定

日 時 平成 19 年 7 月 27 日 (金)
場 所 未定